

経営比較分析表（令和6年度決算）

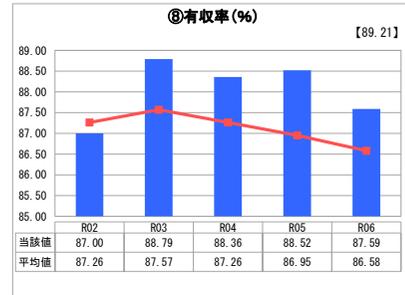
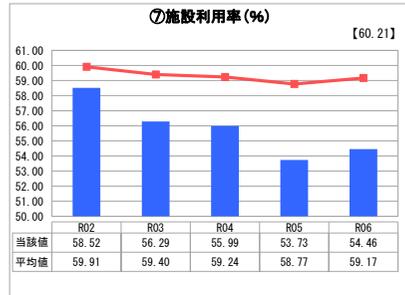
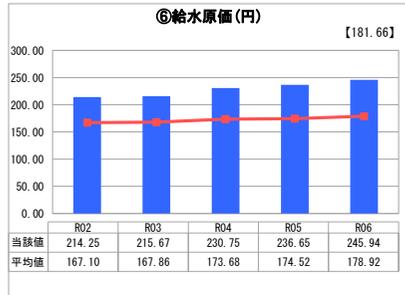
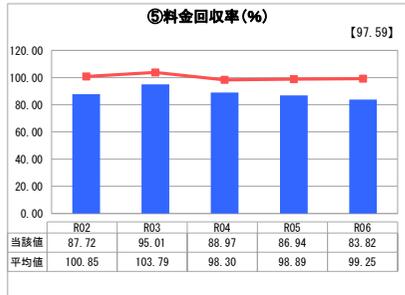
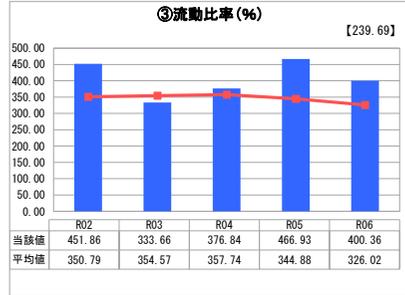
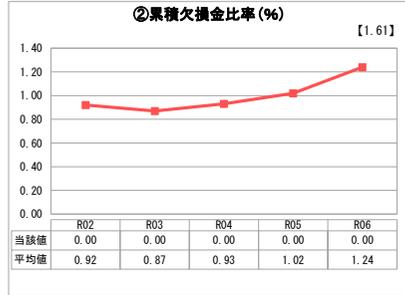
岡山県 津山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	77.65	99.42	3,575	

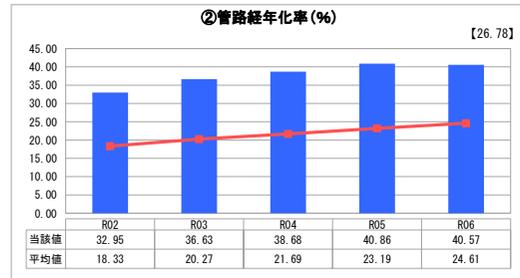
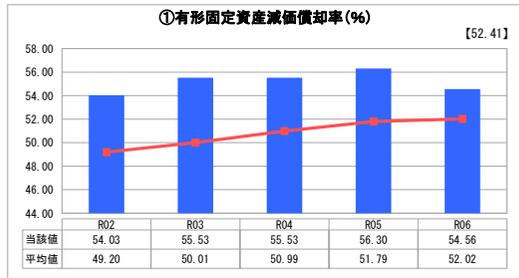
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
95,030	506.33	187.68
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
93,721	205.67	455.69

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、令和6年度時点で100%を上回っているが年々悪化しており、支出の増加、料金収入の減少が進んでいる。
 ②累積欠損金比率は、引き続き0%となっている。
 ③本年度は昨年度と比べ流動負債が増加したため、流動比率は低下したが、依然400%以上で短期的には高い水準を維持し、類似団体平均値を上回っている。ただし令和3年以降、現金預金は減少しており、将来的な流動性リスクに対応した戦略が必要である。
 ④企業債残高対給水収益比率は、概ね300%で推移しているが、給水収益が悪化していることから、上昇傾向にある。
 ⑤料金回収率は、類似団体に比べて低く、100%を下回っている。令和6年度は、給水原価が上昇していることから、回収率は減少している。
 ⑥給水原価については、近年経常経費が膨らんでいることから上昇傾向にある。
 ⑦施設利用率は、給水人口の減少などに伴う水需要の減少により、低下傾向にあり、令和6年度は若干上昇したものの、依然として類似団体平均を下回っており、施設の統廃合、縮小を検討していく必要がある。有収水量減（前年度比0.5%減）の内訳として、前年度比家庭用で約0.3%減、事業用で0.7%減となっている。
 ⑧有収率については、鉛給水管更新等漏水対策などにより近年改善して、一定水準を超えて推移している。本年度は、前年度に比べ寒波により有収水量が落ち込んだため、低下している。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、管路更新を進め、若干低下したものの、依然として類似団体よりも高い傾向にある。
 ②管路経年化率は、類似団体に比べ高い値で推移しており、対策が急がれる状況は変わっていない。
 ③老朽化の進む管路について、順次更新を進めている。工事によって管路延長が異なるため、年度毎の更新率に差異が生じている。今年度は、老朽管の更新延長が伸びたことにより、更新率が上昇している。

全体総括

現時点では、経常収支比率が100%、流動比率400%を上回り、短期的な収益性・流動性が保たれているが、ともに悪化傾向にあり、人口減少に伴う水需要の減少、経費の上昇で現金の減少が続いており、今後も、経営状況は厳しさを増すものと考えている。
 一方で、有形固定資産減価償却率、管路経年化率ともに類似団体より高く、管路の老朽化が進んでいるため、水道ビジョンに基づき、管路等更新事業を着実に進めていく必要がある。